

鹿沼市庁舎整備検討委員会第2回会議 議事録

日 時：平成25年 1月22日（火）午後2時00分～3時45分

場 所：鹿沼市民情報センター 1F 研修室

出席者：鹿沼市庁舎整備検討委員会委員

1号委員：三橋伸夫、大塚晴久

2号委員：富久田耕平

3号委員：山菅昭八、黒川義久、木村剛考、井戸道廣、大橋廣美、
福田弘之、沼馨、鈴木康子、大塚美津子、渡辺美子、
永田由美子、松島良子、風間教司、伊藤進太郎

4号委員：松山裕

(欠席者 3号委員 瓦井伸一、福田七右衛門、斎藤利恵、松崎清子)

事務局 5名

議事内容

1. 開会

- ・事務局による開会

2. 委員長あいさつ

- ・前回の検討委員会では、事務局より庁舎の現状を説明いただき、委員の皆様把握していただいた。今回は、鹿沼市の行政の中枢を担う庁舎に、どのような機能が必要なのかを検討していただきたい。

3. 報告事項

『(1) 第1回委員会の議事録について』、事務局より説明

- ・委員の委嘱、市長から委員会への諮問後、本庁舎および東館の現状と課題、構想策定スケジュール等についてお示した。
- ・質問のあった東日本大震災の被害状況については、今回、別紙「東日本大震災被害状況（本館、増築棟、新館、東館）」をお配りさせていただいたが、緊急修繕を要する大きな被害はなく、ひび割れ程度の被害だけであった。
- ・議事録については鹿沼市のホームページにも掲載され、市民の皆様公表している。

4. 議事

議題に入る前に、庁舎に求められる機能の項目立てをするまでのプロセスについて事務局より説明。

- ・ 現庁舎問題・課題については、庁内ワーキンググループおよび第1回検討委員会でご検討いただいた課題・問題等を合わせたものである。
- ・ さらに、庁内ワーキンググループにおいて、現庁舎の問題・課題の解決または改善するために必要な導入すべき施設や設備等を検討して、31の小項目に分け、また、それらを関連するものに分類して、「ア防災拠点としての機能」から「ク庁舎維持管理・セキュリティに必要な機能」までの8つの大項目と設定した。
- ・ 今回の検討委員会では、アからエの4項目のご検討をお願いし、次回の検討委員会においては、残りの4項目についてご検討いただきたい。
- ・ 委員会の進捗にもよるが、第3回から7回の検討委員会においては、庁舎に必要な面積、庁舎整備の事業費、庁舎の整備方法（改修か建替えか及び整備位置等）等について、この間に実施される世論調査の結果を踏まえながらご検討いただく予定である。

- 『(1) 庁舎に求められる機能について ア防災拠点としての機能』について、事務局より説明
- ・ 検討する機能及び検討する導入施設・設備等については1ページのとおり
 - ・ これらの機能について、検討委員会における検討のたたき台として、庁内ワーキンググループにおいても、職員の立場から検討した。
- 結果については、別添資料1の1、2ページのとおり。また、別添資料2を参照。

○質疑応答

永田委員：坂田山と菊沢にだけ防災拠点があると伺ったがもう一度説明してほしい。

事務局：坂田山には防災倉庫があり、菊沢コミュニティセンターは防災センターの一部を兼ねている為、防災用の資材等が備蓄されている。また、水防関係のものは消防に備蓄されているが、本庁舎にはそれらのものが備蓄されていないということ。

永田委員：市の東のほうには防災倉庫はないのか。

事務局：市が管理している防災倉庫はない。

福田(弘)委員：私の住まいからだとう日光市役所に行ったほうが近い。栗野の方では栃木市に行ったほうが近いという方もいると思うので、近隣市との連携が必要だと思われる。

委員長：事務局から説明があった機能と同等のものがそれぞれの市庁舎でも備われば、連携は支障なく行えると思われる。

委員長：導入すべき施設として、緊急車両、作業用車両の対応スペースとあるが、具体的に必要な面積の計算はいつ頃検討されるのか。第3回から7回で庁舎の規模・必要面積が議論の予定となっているが、その際に、緊急車両等の対応スペースの面積も検討されるのか。

事務局：車両スペースの必要面積の計算については、ご検討いただいている求められる機能に基づいて、例えば何台くらい必要なのかという事を今後議論した中で、適正な面積をはじき出し、皆様にお示した上で再度ご検討いただきたい。

大橋委員：事前に資料をいただいたので拝見させていただき、また、先ほども説明を受けた中で素人ということもあり、これ以上の必要な設備等がなかなか思い浮かばない。庁内ワーキンググループ等で検討して、こうして提案されているもので私はいいと思う。

○『イ来庁者の利便性を高めるための機能』について、事務局より説明

- ・検討する機能及び検討する導入施設・設備等については2ページのとおり
- ・庁内ワーキンググループの検討結果については、別添資料1の2～4ページのとおり。
また、別添資料3、4を参照。

○質疑応答

福田(弘)委員：雨天時に移動が少なくて済むように、また、障害者の方が楽に移動できるような配置やバリアフリー化をすることが望ましいのではないかと。また、地下駐車場の設置等も有効なのではないかと。

委員長：地下に設置すると、多少工事費がかかる。ただ、耐震（揺れにくくする）という意味では、いずれにしても基礎工事を行う予定の為、その延長上で考えられなくはない。

事務局：現庁舎敷地では地下水が出るので現実的ではない。「駐車場・駐輪場の整備」の項目にも地下駐車場が掲げられおり、今後の検討課題としたい。

富久田委員：1つの大きな庁舎にするのか、分散された庁舎にするのか。それが決まれば議論しやすいのではないかと。

事務局：それぞれにメリットがある。分散型の庁舎とした場合、来庁者がまちを歩き賑わいが生まれ、まちの活性化が考えられる。反対に、1つの大きな庁舎とした場合、目的によっては1か所で用が済み利便性の向上につながる。ただ、今の段階では、どちらかに決めるということは考えていない。検討委員会は様々な立場の方で構成されている。職員が気づかない部分に関してご意見をいただくとともに、それらについても検討していただきたい。

大塚委員：検討をする際には、始めは立体（面）で考え、平面で考え、点（施設）として考えていくという観点が必要なのではないかと。都市計画や景観、周辺の整備状況を含めながら検討すると幅が広がるのではないかと。

委員長：建物が機能するためには、建物が建っている土地との関係性を考える必要がある。例えば、多くの車が入り出る（緊急の場合には、いっそう交通に負荷がかかる）ことを考えた場合、周辺の道路状況にも関係があり、そこから分散が良いのか集中が良いのかということも関わってくる。まちとの関係で建物を評価する、必要な機能を見定めるという観点も必要ではないかと。まちとの関係も含め周辺の状況も重要である。

事務局：2、3回目の検討委員会は機能そのものの検討であり、その後、位置等の問題を検討するため、都市計画や景観などのまちづくりと関係した議論になる。

大塚委員：旧市内の東部地区・北部地区・中央地区の3地区には、コミュニティセンターがないが、その辺はどうか。

事務局：自治会協議会でも、長年、中央地区にコミュニティセンターをという話しは出ている。それに代わるものとして御殿山会館別館や中央公民館跡地等があったが、耐震性の不備等により返還され、使用できない状態となっている。今現在、中央地区には使用できる会議室がない為、まちなか交流プラザを使用している。本庁内に市民の方が利用できる会議室や市民交流ひろば等を設けるといった意見も出ている為、今後、整備できるかを検討したい。

大塚委員：旧市内以外の地区ではコミュニティセンター機能があり、職員が各種団体に関わりサポート等をしている。各種団体が自分たちだけで運営していればいいが、大変な部分もあるので旧市内もコミュニティセンターと同じような形で活動ができればと思う。

山菅委員：十数年前から要望していることである。去年、事務の一部を市が行うようになった。

大橋委員：コミュニティセンターは、鹿沼町から鹿沼市になった際に、本庁から遠く離れた方が距離的にも時間的にもロスが少なくて済むようにと、各地域に出張所が置かれたのがもとである。確かに旧市内においてもコミュニティセンターがあれば良いと思う。

渡辺委員：機能的なものではなく、各種団体が活動をする上で、各地域ではコミュニティセンターの職員が入ってサポートしてくれているので、旧市内においても同じような形でないと不公平ではないかと思っている。

永田委員：現庁舎に授乳室はあるのか。

事務局：1階のロビーにあるので、各階にあればいいと思っている。

永田委員：部屋というより各フロアの一角にコーナーを設けるようにしたほうがよい。

各フロアに中途半端なものを置くのであれば、こども支援課の辺りに充実したキッズスペースを置けば良いと思う。

鈴木委員：北押原のコミュニティセンターでは最近キッズスペースが作られ、南押原のコミュニティセンターにおいても、これから設置が予定されておりとても喜ばれている。やはり庁舎内にも必要ではないか。

松島委員：お母さんの声を十分に聴いた上で、本当に望んでいる物をつくってもらえればと思う。ユニバーサルデザイン等についても、障害者の方などの意見を十分に聴き、無駄なものをつくらないようにしてほしい。

委員長：今、ご指摘いただいた点は、もう少し先の議論であり、庁舎の設計がかたちになってきた時に、反映できれば良いと思う。

○『ウ市民との協働・まちづくりを進めるための機能』について、事務局より説明

- ・検討する機能及び検討する導入施設・設備等については3ページのとおり
- ・庁内ワーキンググループの検討結果については、別添資料1の4～5ページのとおり。

○質疑応答

風間委員：フリースペースの設置とあるが、まちなかには様々なスペースがあり、空いていることが多い。私はまちなかで様々なイベントを実施しているが、スペースが空いているのでイベントを開催していただけないかと言われることがある。そのようなスペースも含めて検討する必要がある。

また、まちなか交流プラザは商業施設の誘致が困難で、現在「フラット」が入っているが、庁舎整備後の連携はどうか。

我々の世代から見ると、立派なものをつくっても維持管理が困難であるため、それらもご検討いただけたらと思う。

委員長：人口減少にならないよう努力をすることが必要であるが、人口を維持するだけでも精一杯である。場合によっては、減少することを想定して庁舎を考えなければならない。判断が難しく総合的な観点が必要である。

フリースペースは防災拠点として、また、救援活動スペースや避難スペースとしても利用可能であるため、それらを考慮し検討することも必要である。

○『エ議会運営を進めるための機能』について、事務局より説明

- ・検討する機能及び検討する導入施設・設備等については4ページのとおり
- ・庁内ワーキンググループの検討結果については、別添資料1の5、6ページのとおり。

○質疑応答

富久田委員：議場に導入すべき施設・設備等については網羅されているのではないかと。

通年議会や委員会なども常時開催され、委員会も2つ同時に開催されることがあるため、委員会室は2室以上必要だと思うし、議員及び傍聴者専用の駐車場は必要だと思う。

委員長：議会が開催されていないときの議場の一般開放についてはどうか。

富久田委員：一般開放が可能な議場ができれば良い。例えばコンサートに必要な防音装置等が整備されるなど。

大塚委員：議場をコンサート会場のように一般開放している市はあるか。

事務局：調べたところ2か所ほどある。

大塚委員：議場が空いている時にコンサート会場として利用することも1つの方法だと思うが、その場合、品格、モラルを重んじたものとしたほうがよい。議場としての位置づけが大切。

委員長：市民に議会を身近に感じてもらう意味合いもある。

富久田委員：現在は、議会開催中にコンサートを開催している。

富久田委員：議会の中でも庁舎整備の委員会を設置した。議員の立場から出た意見をまとめ、この庁舎整備検討委員会に意見を出していきたい。

5. その他

伊藤委員：現在大学4年であり、4月から就職をし、検討委員会に出席できなくなるため、意見を述べさせていただきたい。

20代の若者から見たときに、市庁舎の建替えは必要ないのではないかと。

まずは、教育現場の整備をしてほしい。東小学校の建築年数は市庁舎の新館と同じくらいの年数が経過しているとのことであるが、震災後に耐震補強を行った。市庁舎新館についても耐震補強を行うなど、建替えをする必要がないように思う。

また、小・中学校は防災拠点としても役割を果たし、有事の際に避難場所となるため、崩壊することのないよう優先的に整備をしていただければと思う。

事務局：意見として承り、今後検討をしていく上で参考にしたい。

事務局：第3回検討委員会については3月18日（月）午前10時から今回と同じ場所で開催を予定している。

議事については、「庁舎に求められる機能について」の後半部分を予定しているので、ご検討いただきたい。

6. 閉会